

港湾交通対策特別委員会中間報告

(1) 姫川港貨物取扱い急増に伴う整備計画の早期完成と次期計画の調査と整備推進

植物防疫法上の輸入港に指定されたことを受け、多機能になり可能性が生まれてくることから、高規格道路の整備ともあわせ、今後の活用策を要望する意見が出された。これに対して、長野県方面の企業の陸揚げが少し見えてきているといった報告があった。

その他に、沖防波堤延長工事による海岸侵食に対する対応についての質疑要望も取り交わされた。

(2) 一般国道8号糸魚川東バイパス梶屋敷～押上間の早期完成と間脇～梶屋敷間の調査

押上海岸の整備に関連して、押上にできる予定の海川左岸部の高架橋下の駐車場等の利用についての質問があり、それらも含めて検討してもらうよう高田河川国道事務所に提示はしてあるとのことであった。国の予算が未確定であるが、大和川・押上については26年度開通を目標に、また浦本までの間の早期着工もあわせて要望しているとのことであった。

(3) 地域高規格道路松本糸魚川連絡道路市内区間の整備区間への昇格

長年要望しているが、話が進まないことについて、粘り強く煮詰めていくよう働きかけてほしいと要望が出された。

また、国道148号沿いが商業を中心に衰退していることを危惧し、今複数ある期成同盟会をまとめて、全体で動いていくような新たなアクションプランの作成を求める意見も出された。

(4) 北陸新幹線開業に伴う並行在来線の調査、研究と大糸線の活性化調査

臨時会で補正予算を可決したにもかかわらず、第3セクターがまだ設立されていないことについて質問があり、県においては会社設立に対する基本的な事項を慎重に検討している段階であるとの説明があった。

また、デッドセクションの移設費用について県知事との見解の相違があるとのことだが、この問題に限らず、しっかりとした理論と根拠を持って県との対応に当るよう意見が出された。行政からは、いずれにしても糸魚川から新潟に向けての優等列車の運行は、必ず実現しなければならないと考えているとの答弁があった。

(5) 北陸新幹線建設促進と駅周辺整備の推進

10月下旬までに新幹線駅舎デザイン検討委員会が、学識経験者、各種団体の代表、公募市民によって設立されることが説明され、委員からは、検討委員会と当特別委員会との関係についての質問があり、検討委員会と特別委員会の双方の意見を聞いて、最終的には市長が判断することになるとの答弁があった。新幹線駅舎のデザイン案については、切り取り保存された赤レンガ車庫の部材の活用も含めたものも依頼してあるとのことであった。

その他、新幹線駅舎から南口、駅南線につながるロケーションづくりや、駅舎からの眺めを重要視する意見、駅南線と中央大通り線との交差部分の安全性の確保と交通渋滞の発生を危惧する意見が出された。

大町市議会と行政懇談会を開催

大町市議会議員と当市議会議員の連絡強化と両市の円滑な行政運営を図るために、平成2年から継続されている『大町・糸魚川二市議会議員連絡協議会』が、7月27日に、「能生マリンホール」を会場に開催されました。行政懇談会では研修として上越漁業協同組合から「水産業の現状について」を、糸魚川青年会議所から「南蛮エビ活用の取り組みについて」を説明していただき、その取り組みについて活発な質疑応答がありました。様々な意見交換もあって、当市での水産業について理解を深めることができました。

また、弁天岩ジオサイトと筒石・浜徳合ジオサイトを巡り、当市ジオパークの魅力が大町市議会議員へ伝えることができました。

